水桜学園
TM発表

本日はありがとうございます

１．水桜学園について

学校名	門真市立水桜学園
設立	２０２６年４月１日
クラス・生徒数 （２０２６年５月１日現在）	１年２クラス７８人　７年３クラス８１人 ２年２クラス７８人　８年３クラス９９人 ３年２クラス７５人　９年３クラス１０７人 ４年２クラス６５人　合計 ５年３クラス８４人　前期課程４６２人 ６年３クラス８２人　後期課程２８７人
学校教育目標	自立・共生・チャレンジ

令和８年度スクール・エンパワーメント（SE）推進事業

【S】【T】【U】

事業目標　域内すべての子どもたちの学力を向上させる

市町村が主体となり、それぞれの課題に取り組み　その成果を域内に普及・発信する旗艦校

【S】確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校	◆ 市町村が主体となり、事業実施校を旗艦校として、市町村の課題に正対した取組みを充実させ、成果を域内に普及・発信させる。 ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善等に取り組む。 ➢ 各市町村　小学校・中学校　各１校　（計82校）

市の旗艦校として

１）市町村の課題に正対した取組を充実

２）成果を域内に普及・発信

３）主体的対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善等に取り組む

２．水桜学園の目標

令和８年度　水桜学園　校内研究構想図

学校教育目標

自立・共生・チャレンジ

めざす子ども像

（肯定）自分の「好き」や「安心」を増やし、自信の種を育てる子ども

めざす子ども像

（協働）自分と相手の違いに気づき、言葉で解決する楽しさを知る子ども

めざす子ども像

（自立）自分の進む道を選び、周囲と協力しながらやり遂げる子ども

研究主題

自ら考え対話を通じて学びを深める授業の研究
～主体性のグラデーションに注目して～

研究仮説

主体性のグラデーションに注目して、自ら考え、対話を通して、学びを深める研究をすることで、資質・能力の向上をはかる

取組❶

授業は単元全体で計画する

取組❷

振り返りを意識して、自分の考えや進め方を見直すことを重視する

取組❸

発問や課題を通して、教師と児童生徒や児童生徒同士の対話の活発化を意識する

指示されたことにはできる範囲で取り組むが、自ら考え、学びに向かう児童・生徒が少ない。

３．目標設定の経緯

昨年度までの取り組み（水桜小）

１年

・教育目標に沿っためざす子どもの姿（1学期）

１年	めざす子ども姿
自立	自分の考えをもつ。 基本的な授業の受け方の習得。
共生	いろんな学び方を知る。自分にあった学び方を見つける。 いろんな考えの人がいることを知る。
チャレンジ	まず見る。（チャレンジしてる人を！） まずやってみる。 応援して背中をおしてもらえたらがんばれる。 共生の上にチャレンジがある。

1学期大事にしたいこと

	教科の取り組み・手立て
共生	いろんな道具を使って学び方を知る。 見方・考え方を知る。（みんなの考え方を知り、自分の学びが深まる。） 共有する場を多くもつ。

昨年度までの取り組み（水桜小）

授業計画と研究主題に迫る手立てを記入し、見学の視点とした

3年【　国語　　】

単元名	カミツキガメは悪者か
単元のめあて目標	筆者の考えとそれをささえる理由や事例を読み、生き物について考えたことをつたえ合いましょう。

授業計画

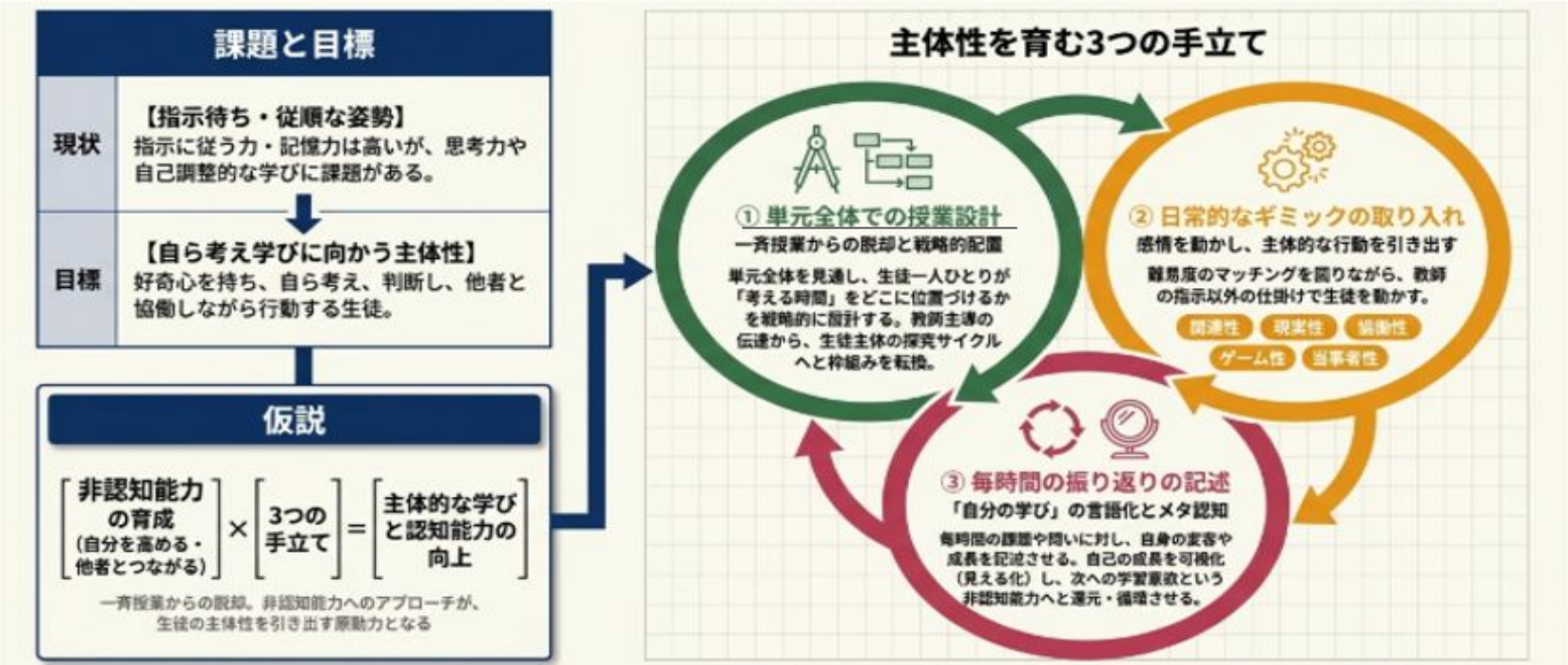
時	学習課題
1	かめについてのイメージを話し合う。初発の感想
2	段落分け、はじめ中終わり
3	問いを見つけ、答えを見つける。
4	答え以外の段落はなんのためにあるか考えながら内容を読む。１～１０段落
5	⑪段落～⑬段落
6	⑭段落～⑰段落
7	⑱段落～⑳段落　筆者が悲しい生き物という理由について考えよう
8	ほかの外来種について調べよう
9	調べた外来種について発表しよう

研究主題『子ども主体の学びを目指した授業～自ら学ぶ力をつけるために～』に迫る具体的な手立て
・自分の意見を持ちやすいように線をひいたり、考えやすくできる手立てをうつ。
・グループではなし合う時間を多くとる
・導入でかめについてイメージを持って、興味関心をひく。　・最終的に発表があることを先に伝え、学習の見通しを持つ。
答えを見つけるのはすぐに難しい？段落ごとに丁寧にするべき？
ゴールのいい方法

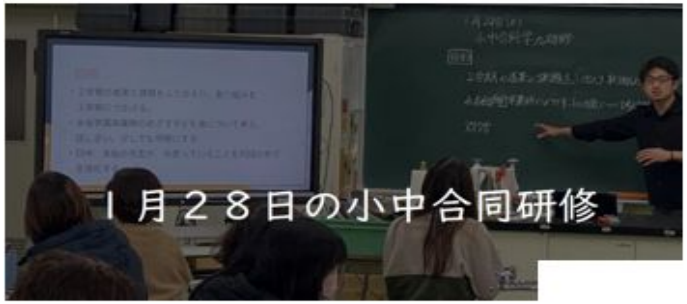
昨年度までの取り組み（第四中学校）

確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校１年目（2025年度）

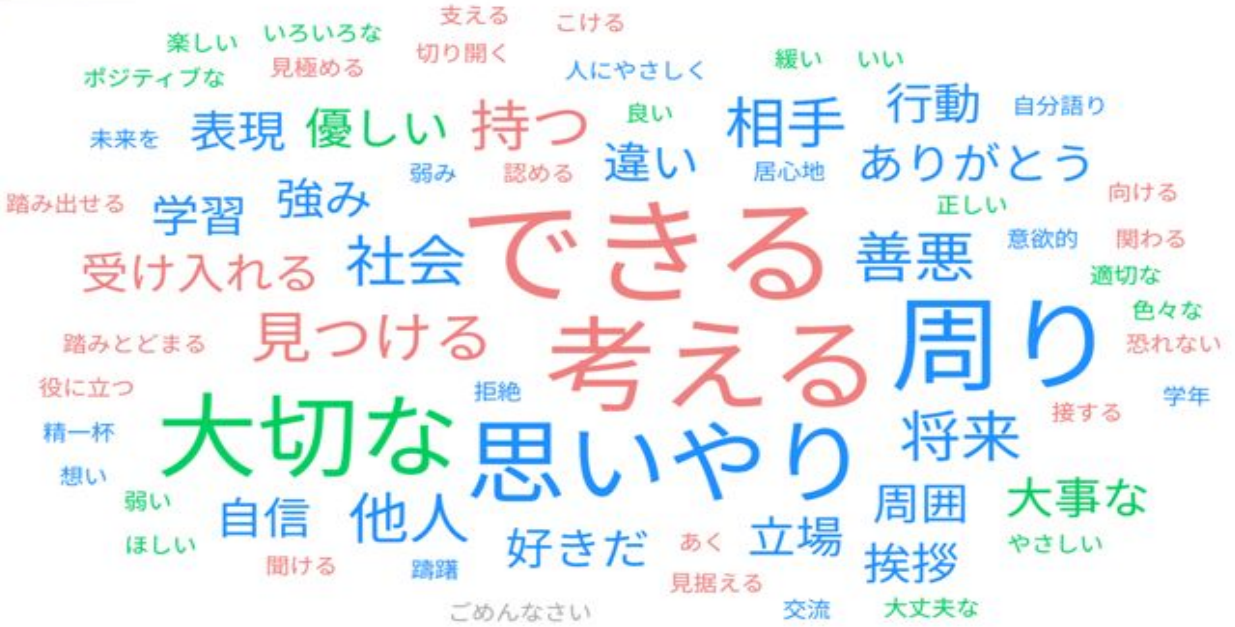
研究テーマ：　「生徒が主体的に学ぶ授業の研究」
～興味を持たせる仕掛け（ギミック）を意識した授業づくり～



昨年度までの取り組み（合同研修）



このような生徒を育てたい
（１月２８日研修　ワードクラウド）



令和８年度　水桜学園　校内研究構想図

学校教育目標

自立・共生・チャレンジ

めざす子ども像

（肯定）自分の「好き」や「安心」を増やし、自信の種を育てる子ども

めざす子ども像

（協働）自分と相手の違いに気づき、言葉で解決する楽しさを知る子ども

めざす子ども像

（自立）自分の進む道を選び、周囲と協力しながらやり遂げる子ども

研究主題

自ら考え対話を通じて学びを深める授業の研究
～主体性のグラデーションに注目して～

研究仮説

主体性のグラデーションに注目して、自ら考え、対話を通して、学びを深める研究をすることで、資質・能力の向上をはかる

取組❶

授業は単元全体で計画する

取組❷

振り返りを意識して、自分の考えや進め方を見直すことを重視する

取組❸

発問や課題を通して、教師と児童生徒や児童生徒同士の対話の活発化を意識する

指示されたことにはできる範囲で取り組むが、自ら考え、学びに向かう児童・生徒が少ない。

主体性のグラデーション　水桜学園ver

主体的な学習の深まり

生徒に身につけさせたい「主体性」にかかわる力　水桜学園ver		
カテゴリ	定義・方向性	このような生徒を育てたい（１月２８日の研修より）
５：自律 （こだわり）	自分で課題を見つけ、解決に向けて取り組める力	やりきれる／やりたいことに精一杯努力できる／目の前の出来事から逃げずに努力し続ける／「本当にそうか？」と立ち止まって考えられる
４：学び超え （生涯学習者）	教室での学びを実生活につなげ、探究し続ける力	やりたいことを見つける・語れる／違いを受け入れ、拒絶しない／アイデアを形にする／自分からつながる／わくわくする方向へ踏み出せる／じっくり考える／正しく判断する
３：学び方 （自己調整学習者）	見通しを立て、考え・振り返る力	粘り強く取り組む／周囲の人の様子を感じとれる／真似をする／我慢する／自力・自立・自己管理
２：関心意欲	新しいことや周りの人に対して前向きに関わろうとする力	やってみる／意欲的に取り組む／ポジティブに周りに影響を与えられる／指示を待つのではなく、まずは動く（入り口）
１：表面的参加 （受け身）	周りからの評価を目的で行動する力	毎回の授業に参加する／ルールを守る／基本的な学習態度を身につける

４．今年度の取り組み

教育観の共有

学年・教科取り組み概要の作成、共有

①昨年度の反省

成果
取り組みが安心につながり、挙手できる児童が増えた。発表が苦手な児童もやってみよう！の気持ちが増えた。自分で問題を作ったり、解いたりするなど、チャレンジする児童が多く見られた。

課題
自分の考えを発表するのが苦手な子がいるので、（失敗を恐れる）友達同士で助け合える集団作りをしていきたい。（苦手な子の代わりに意見を発表してあげるなど）
友達の意見を取り合えずの反応になりがち。
指示待ちや先生にすぐ聞く児童が多い。

②主体性が発揮されている子どもの姿

レベル１：【表面的参加】
先生の指示を聞いて自分で学習に必要なものを用意し、勉強に取り組むことができる。次、何をするのか考えて、話を最後まで聞くことができる。

レベル２：【関心意欲】
この単元で（この１時間で）どんな力をつけるか考えて学ぶことができる。めあてを意識して自分で具体的な目標立てて、その目標が達成できるように学ぶことができる。また、ふりかえりに自分のめあてが達成できたかどうか書くことができる。

レベル３：【学び方】
勉強の仕方や場所、一緒に学ぶ相手を考えて自分に合った勉強の仕方で学ぶことができる。４５分間の時間配分や、テストや提出期限までのスケジュールなどを逆算し、計画的に学ぶことができる。何・どの助け（人も含む）が必要か自分で考え行動することができる。

レベル４：【学び超え】探究と各教科など
既習の学習とつなげて考えることができる。自分の生活に結び付けて、活用できるように学ぶことができる。家庭学習で、学んだことを生かすことができる。自分の興味あることと教科の学びを関連付けて考えを深めることができる。

レベル５：【自律】
自分で学習することを決めて勉強することができる。今までの学びを振り返り、自分でさらなる課題を見つけて解決できるように学ぶことができる。今までの学びから新たな学びを設定することができる。

③今年度取り組む予定の具体的な取り組み

探究「環境」・算数「自己調整学習」

④1学期総括

成果　児童自身で単元計画を見て、その日の学習内容やめあて、教科書のページなどを教師の指示がなくても把握できるようになってきた。いつテストがあるとか、昨日の学習が今日につながるとか流れがつかめる子が増えた。１時間„„ごとにめあてとふりかえりを入力する習慣がついてきた。

課題　自己調整なので子どもに委ねていくのはいいのだが、一人で学習するより仲間とやるほうが教えてもらえるのにな、と思う児童が一人でやる場を選んでいたり、丸付けやまちがなおしを適当にやりすごす児童が数名いたので、子どもたちに、自己調整学習をしている意図や意識をさらに高めさせたいと感じた。

2学期の取り組み
「防災」

⑤2学期総括

成果

課題

3学期の取り組み

⑥年間総括

成果

課題

取り組み
『単元計画・ふりかえり・対話』

～授業づくりのポイント～　まずは『単元目標 × 単元計画』で授業をつくる!!

単元目標を意識した授業づくり　⇔（子どもの実態）⇔　**単元全体でみる授業計画**

子どもも一人ひとり、認知特性や学習のペースが異なります。そのような子どもたちが、主体的に学び、課題を見つけて解決する力を身につけるためには、教師主導の授業だけでなく、学び方や課題を自ら選択できる授業設計が重要です。子どもたちが「自分の学び方」を見つけられるよう、授業は単元全体のまとまりで構想していきましょう。

学習環境と人間関係づくり

授業づくりの土台となるのは「安全・安心な学習環境と集団の人間関係」です。
また、誰しもが学びやすい環境であるユニバーサルデザインの視点も大切です。
「授業者の指示はなるべく短く」「適度な学習量・情報量」「何度もチャレンジできる時間をつくる」などもご心がけましょう。

学習指導要領には、「この教科等で、いつ、どんな力をつけるのか」が示され、各学年の学びが系統的につくられています。これを踏まえて単元目標や内容を意識した授業を行うことで、すべての子どもに大切な学びを届け、確かな力を育むことができます。

授業づくりのステップ!

●単元の位置づけ、指導事項（その単元で何を教えるのか）を確認
●学習指導要領の確認（解説で具体的な内容や系統性を確認）
●教材研究および児童・生徒の実態把握
●単元目標と評価規準の設定
　単元目標（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）
　評価規準（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）
●単元計画を作成（●～●のプロセスを踏まえ、単元全体の計画を考える）

単元計画を立てる時のポイント!



「一斉・グループ・1人」の使い分け
教師の話を全員で聞く時間だけでなく、友だちと相談したり、1人でじっくり考えたりする時間をバランスよく配置しましょう。



「自分で選べる」場面をつくる
子どもたちが自分のレベルや興味に合わせて「学び方」を選べる工夫をしましょう。

子どもたちが学び方を自ら選択できるよう、学習方略（よりよく学ぶための効果的な学び方・考え方の工夫）を共有することもポイントです!



中教審 教育課程部会
総則・評価特別部会
「個に応じた学習過程の充実について」

《 単 元 計 画（略案例）》

【単元】中学校 第Ⅰ学年　数学『平面図形』
【単元目標】
・基本的な作図方法や図形の移動について理解することができる。【知識及び技能】
・図形の性質等に着目し、作図の方法や図形の関係性について考察し表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
・平面図形の性質や関係を数学的な見方で捉えることの便利さに気づき、粘り強く考えようとする態度を身に付ける。
【学びに向かう力、人間性等】

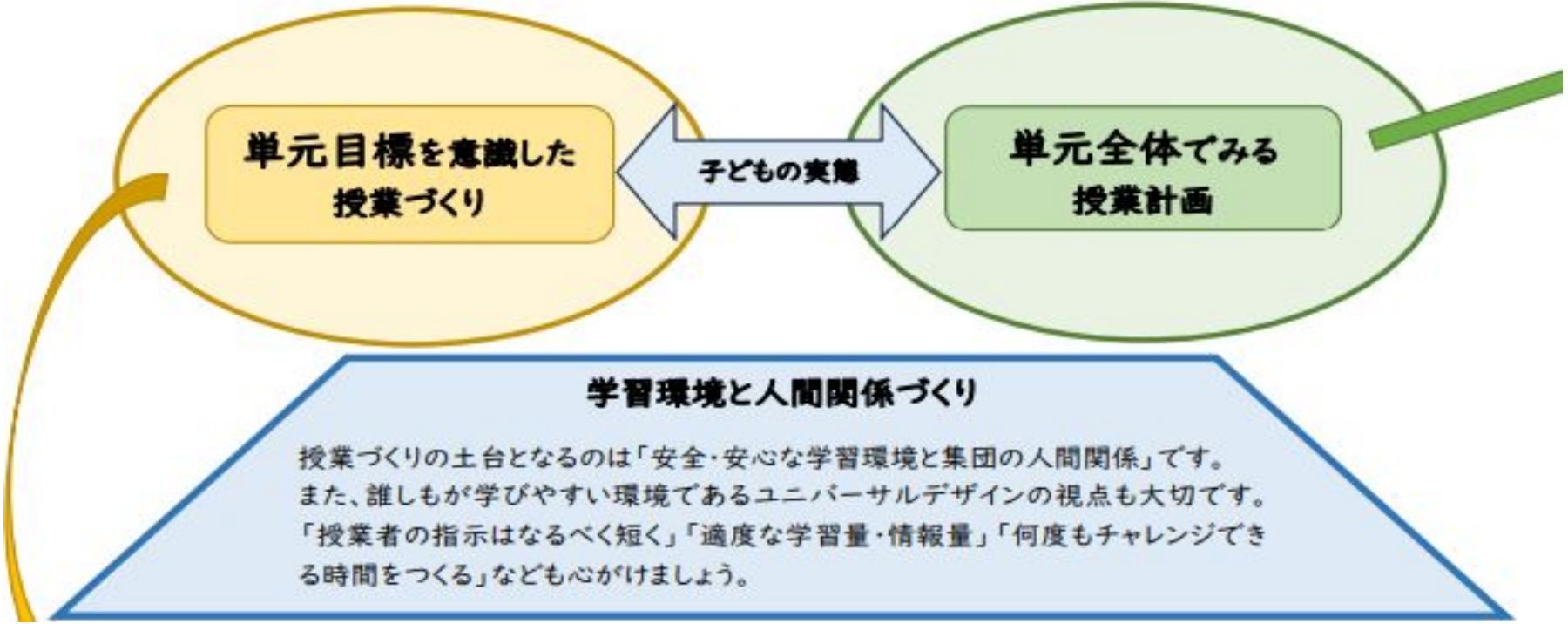
時間	○ねらい　・学習活動	評価 重点	評価 記録
1	○直線、線分、半直線について、定義と用語を理解できるようにする。 ・既習事項の確認を通して、単元の見通しを持つ。 （単元で身につける資質・能力や単元計画、単元末に解けるようになる問題等を生徒たちと共有（⑥））	知	
2	○2直線が平行かどうかを定義にしたがって説明できるようにする。 ・点と直線の距離、2直線の距離について考える。 （説明する方法や根拠等については生徒が考える（⑤））	思	
3	○2つの図形を重ねる動きを、平行移動、回転移動、対称移動として捉え、説明できるようにする。 ・図形の3つの移動について実際に図形を動かし、話し合う。 （ICT を活用し、全体で共有（⑦））	思	
4-5	○図形の3つの移動について、性質を理解し、実際にかいたり説明したりできるようにする。 ・今までの学習内容の理解度を確認。（ミニテスト） （複数の課題を用意し（⑦）、問題の内容、解く順番については生徒が自己選択（⑤））	知 思	○
6	○与えられた条件を、たこ形の性質と関連づけて捉え、説明できるようにする。 （活動は個人でもグループでも可（⑥））	思 態	
7-8-9	○線分の垂直二等分線の作図をできるようにする。 ○角の二等分線の作図をできるようにする。 ○垂線の作図をたこ形と関連づけて捉え、作図をできるようにする。 ・教科書の作図の方法や、QR コンテンツを見ながら学習を進める。 ・今までの学習内容の理解度を確認。（ミニテスト） （3 時間の中でねらいが達成できるよう、自己調整して学習を進める。（⑤） 授業者は個に応じた必要な支援を行う（⑦））	知	○
10	○学習した作図を適切に組み合わせて、問題を解決できるようにする。 ・宝が隠されている位置について、既習の作図方法を用いて探し出し、自分の言葉でまとめ、説明する。（ノート） （学んだことをアウトプットする課題を設定（⑤））	思 態	○
11	○円の弦の性質を理解し、具体的な場面に利用できるようにする。	知	
12	○円の接線を作図する方法を見いだすことができるようにする。 （学習内容だけではなく、学び方についてもふり返りを行う（⑧））	思	
13	○単元全体の学習内容について確認し、ふり返ることができるようにする。（ミニテスト・ノート）	知 態	○

一人ひとりの理解度や考えを授業者が把握し、今後の指導に生かしたり（⑦）、子どもが自分自身の学びを意味づけ、次の学びにつなげたりするために、「ふり返り」を行う習慣（⑧）も大切です。

※この単元計画はあくまでも一例です。子どもたちの実態に応じた授業づくりを行いましょう。
※子どもたちにどのような力を付けさせたいのか、また、その具体的な姿を明確にしていくためにも、単元目標を踏まえた評価規準を設定しましょう。

門真市版授業づくりベーシック（第二版）

授業づくりのポイント～まずは『単元目標×単元計画』で授業をつくる



担当からの示範授業・討議会⇨四辻先生による講話

示範授業の感想
見通しをもつことができていた。
→準備は大変だが、生徒は自主的にできていた。

四辻先生より
「主体性がある・ない」という二元論ではなく、**主体性は段階的に育つもの** として捉えることが重要です。

「学びの必然性」と「主体性」を育む授業づくり

（大阪教育大学　四辻先生　７月２２日研修実施資料より作成）

主体性の５段階

⑤自律：課題を自ら見つけ極める。
④学び超え：学びを実生活・探究につなげる。
③学び方：見通し・自己調整・振り返り
②関心意欲：前向きに動いてみる
①表面的参加：評価目的・指示待ち（受け身）

学びの必然性

●「伝えたい・聞きたい」動機づけ
●正解のない問いと葛藤の配置
●没頭（フロー状態）を引き出す

教師の役割・指導観の転換

○「静かにさせる（技）からの脱却
○「静かさ＝正解」ではない

子どもの成長ファースト
・指導の手法に迷った時は、常に「どちらが子どもの成長につながるか」を基準に判断する。

2学期示範授業【8年英語の示範授業】

○単元計画

単元目標と評価基準の共有

何ができるようになるために学習するのか目的を持たせる

○Unit 4の単元目標

自分が紹介したい話題を1つ選び、自分の考えを発表することができる。

①無人島サバイバル（生き残るためのルール・行動を話す。）

②最高の学校づくり（自分たちが通いたい学校のルールや活動を提案する。）

③外国人向け「日本攻略ガイド」づくり（日本に来るALT・観光客向けにマナーやおすすめを紹介する

○評価基準

	S（ハイレベル）	A（めざすレベル）	B（やさしいレベル）	C（がんばろう）
知識・技能	自分の考えを発表する際、have to～やmust、動名詞などを用いて、明確に伝わる英語で話すことができる。	自分の考えを発表する際、have to～やmust、動名詞などを用いて、コミュニケーションに支障のない程度で話すことができる。	自分の考えを発表する際、have to～やmust、動名詞などを用いて、一部伝わる内容で話すことができる。	意味が伝わる英語で話すことができない。
思考・判断・表現	自分が紹介したい話題に関するルールやマナーに加えて、その理由や目的なども具体的に話している。	自分の紹介したい話題に関するルールやマナーについて5文程度話している。	自分の紹介したい話題に関するルールやマナーについて3文程度話している。	Bの条件を満たしていない。もしくは発表しなかった。
主体的に学習に取り組む態度	自分が紹介したい話題に関するルールやマナーに加えて、その理由や目的なども具体的に話そうとしている。	自分の紹介したい話題に関するルールやマナーについて5文程度話そうとしている。	自分の紹介したい話題に関するルールやマナーについて3文程度話そうとしている。	Bの条件を満たしていない。もしくは発表しなかった。

2学期示範授業【8年英語の示範授業】

○振り返り

学習内容の流れを
共有

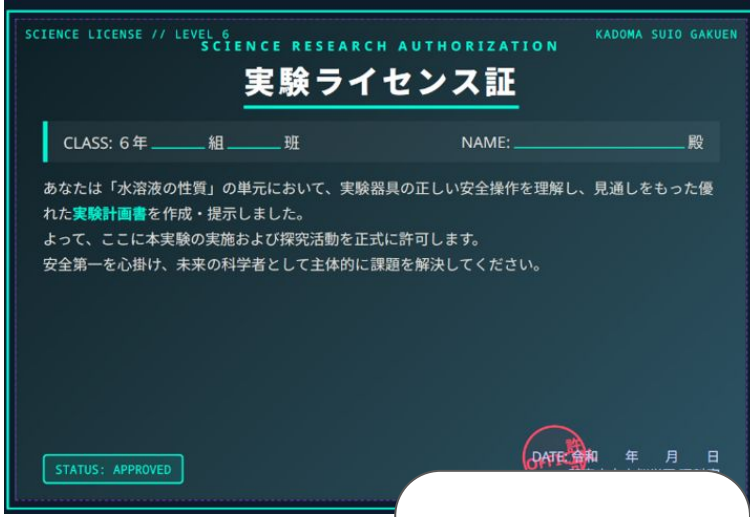
単元のゴールから
逆算した授業設計

	授業内容と目標	自分の学びの振り返り（できるようになったこと、改善点や自分へのアドバイス）
1	自分が紹介したい話題を決め、発表に向けて伝えたい内容をまとめることができる。	
2	ルールやマナーを伝えるために使える表現を練習し、場面に合わせて表現できる。	
3	あなたがホームステイすることになった時にする必要があることやしなくても良いことを表現できる。	
4	ホームステイ先のルールやマナーと設定されている理由を表現できる。	
5	ホームステイで困っているルーカス	

生徒の振り返りから
授業改善へ

日付（予）	時	ページ数	学習課題	自分の目標 （目標を達成するための計画を立てましょう。）
8/28(金)	1		理科室の約束	
8/31(月)	2		器具や薬品について知る	
9/3(木)	3		実験の仕方	
9/4(金)	4		水溶液について	
9/7(月)	5	90~93	ライセンス取得に向けた実験	
9/9(水)	6	94,95	液性について	
9/11(金)	7			
9/14(月)	8			
9/17(木)	9			
9/18(金)	10			
9/25(金)	11			
9/28(月)	12			
9/30(水)	13			
10/1(木)	14			
10/2(金)	15	96～103	水溶液の判別	
10/5(月)	16			
10/6(火)	17			
10/8(木)	18			
10/14(水)	19			
10/16(金)	20			

単元計画



ふりかえり
（スプレッドシート）

対話

自分の目標 （目標を達成するための計画を立てましょう。）	達成度・ 満足度	主体性 ①参加②関心意欲 ③学び方 ④学び越え⑤自律	ふりかえり（勉強してわかったことだけでなく、主体性についてもふりかえ よう）
消えてしまいました(一翔のせいです、)	１００％	①参加	水よう液は、水を沸騰させて塩を入れるのと、冷たいまま塩を入れると、沸騰 たほうが塩が溶けやすかった
色々な器具の名前を知ろう。	８０％	①参加	駒込(こまごめ)＋ごむきゅう＝駒込ピペット、 試験管、試験管を立てる(試験 て)ビーカー(水を測れる・入れれる)、ガラス棒(薬品や塩を入れる際に混ぜれ
安全に実験しながら、どんなものが変わるかなどに通目しながら実験しよう	８０％	①参加	溶かす物によって、色などが変わってくると気づいた。
水よう液について調べたり実験をしてみよう。	８０％	①参加	今日は、薬品が酸性、中性、アルカリ性を調べた結果、酸性やアルカリ性は成 溶かすことがある(指紋を溶かす)。だから、掃除や酸性やアルカリ性がある、 用洗剤などは気をつけて、次から使っていこうと思う。
水よう液特徴シートをなるべくすべて埋めよう。	９０％	①参加	炭酸水は、酸性で、中には二酸化炭素まで混ざっているものを人間はそれを食 いることに驚きました。食塩水なども中性、重そう水もアルカリ性、その中で なったのが食塩水は食塩を入れた水、食塩を混ぜた水は中性になるが、ただの 何性になるのか気になった。

５．成果と課題

児童・生徒【①授業では、学習課題の解決や目標の達成にむけて、自ら進んで考え、取り組んでいる。】

前期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
７９％	８５．４％

6.4%向上！

後期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
７６％	８０％

４％向上！

児童・生徒【②自分の考えを発表する機会では、自分の考えが相手にうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。】

前期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
５７％	７２．３％

15.3%向上！

後期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
８０％	８５％

５％向上！

教職員【①市町村の課題を理解し、それに正対した取組みの充実にむけて学校全体で取り組んでいる。】

前期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
７７％	８３％

６％向上！

後期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
８０％	８９％

９％向上！

【②各種テスト等の結果から、子どもたちの学習状況を把握し、学校の取組みの検証を行ったうえで決定した改善策について自分自身も具体的な取組みを進めることができている。】

前期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
６２％	７６．７％

14.7%向上！

後期

２０２６年度（４月）	２０２６年度（７月）
７５％	８０％

５％向上！

成果と課題

成果

・アンケートの数値からも子どもたちの主体性が育まれていると感じる。

・普段の授業や、総合のアウトプットデイ等で自分の考えを発表する機会が増え、工夫して発表できる子どもが増えた。

・相互参観等、お互いの授業を見たり、TM公開や相互参観などで学年の授業を考えなければいけない場面もあり、学年を超えた声掛けが見られた。

成果と課題

課題

・肯定的回答でない子どもたちが一定数いる

・学校として、教育観の共有の難しさ

・義務教育学校として、学校全体に取り組みを広める・対話の時間確保の難しさ

・『主体的に学びに向かう姿の育成』の取り組みや見取りの難しさ

⇨今後はこの課題を解決するようにしていきたい。

ありがとうございました。